

日露戦争期の政府支出乗数： 景気循環会計によるアプローチ

郡司大志*

宮崎憲治†

2015年1月23日

概要

本稿は、Chari et al. (2007, *Econometrica* 75 (3), 781-836) によって提案された景気循環会計を用いて日露戦争期の日本の政府支出乗数を推定する。景気循環会計とは、ミクロ経済学的基礎を持つマクロ経済モデルの様々な景気循環要因を効率性ウェッジ、労働ウェッジ、投資ウェッジ、政府消費ウェッジの4つに分類し、それらを推定する手法である。景気循環会計で用いられるプロトタイプ・モデルにこれらのウェッジを代入することで正確に景気循環を復元し、シミュレーションを行うことができる。日露戦争は日本が戦場になっておらず、当時の経済規模に対して多額の政府支出が費やされ、前年まで開戦に至るかどうかが不透明であったため、予期せぬ政府支出ショックの自然実験と考えられる。このデータと景気循環会計を組み合わせることで政府支出乗数をより正確に推定することができる。推定方法によって差はあるが、短期の乗数は約1、長期の乗数は1を上回る値が推定された。これらはVARなどによる先行研究の結果を概ね裏付ける結果である。

* 大東文化大学

† 法政大学